

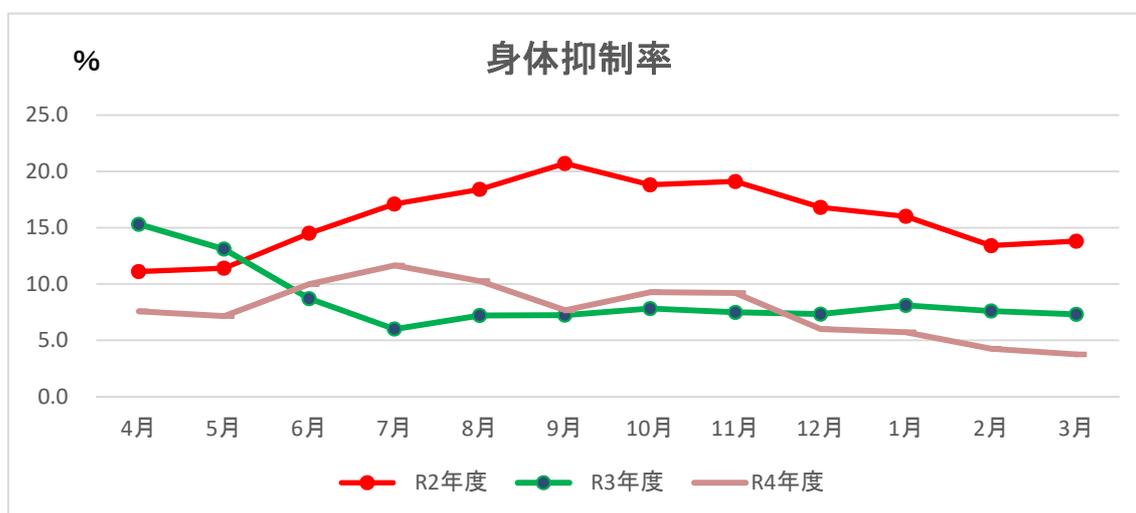
# 当院の身体抑制廃止に向けた取り組み

ふくの若葉病院

身体抑制廃止委員会

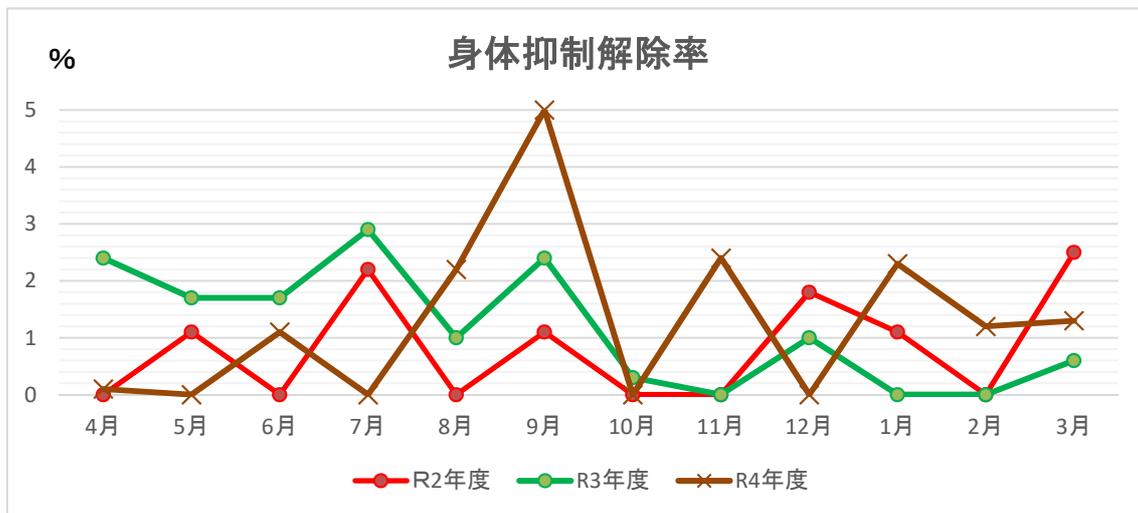
病気や障害を抱えながら入院している患者さんに、安全な生活環境の下で診療を継続することができるように、やむを得ず抑制という手段を選択せざるをえない場合があります。しかし、患者さんの尊厳および苦痛を考慮すると、漠然と抑制することは厳に避けなければなりません。当院では、職員が常に抑制の必要性や方法の適切性を検討し、廃止に向けた取り組みを行っています。

## 臨床指標：身体抑制率の推移（令和2年～4年）



身体抑制率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均値
R2年度	11.1	11.4	14.5	17.1	18.4	20.7	18.8	19.1	16.8	16.0	13.4	13.8	16
R3年度	15.3	13.1	8.7	6.0	7.2	7.2	7.8	7.5	7.3	8.1	7.6	7.3	8.6
R4年度	7.6	7.1	10.0	11.6	10.3	7.7	9.3	9.2	6.0	5.7	4.3	3.8	7.7

## 臨床指標：身体抑制解除率の推移（令和2年～4年）



身体解除率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均値
R2年度	0	1.1	0	2.2	0	1.1	0	0	1.8	1.1	0	2.5	0.8
R3年度	2.4	1.7	1.7	2.9	1.0	2.4	0.3	0.0	1.0	0.0	0.0	0.6	1.2
R4年度	0.1	0	1.1	0	2.2	5	0	2.4	0	2.3	1.2	1.3	1.3

当院の身体抑制廃止に向けた取組を一部ご紹介します。

令和3年度より看護・介護方式を機能別から固定チームに変更をしたことにより、チームスタッフ間で抑制解除に向けたケアの方法をより具体的に進めることができるようになりました。また、職員研修で身体抑制の体験をしたことにより、職員一人ひとりの抑制に対する意識向上に繋がりました。さらに、入院患者さんが中心静脈栄養ポート針を抜去しないよう色々な工夫をしています。

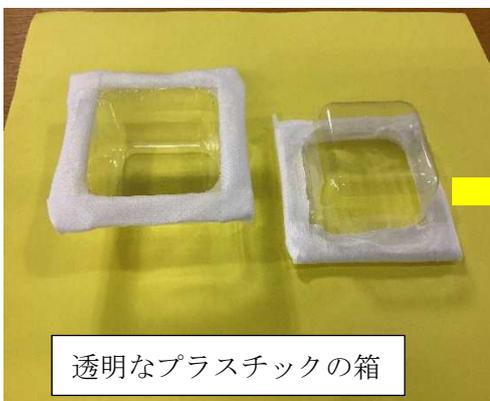
### 📌 身体抑制の体験研修を行い、抑制廃止への意識をもつ

体験研修に参加した職員から、「辛い」「圧迫感や悲しい気持ちにな

る」「体験するとよくわかった」「抑制をしないケアの方法を考えていきたい」などの感想がありました。今後も、職員の身体抑制に対する意識向上を図るための研修を企画していきます。



### ✚ 抑制せずに安全を確保する代替方法を常に考える



※固定方法1



※固定方法2

中心静脈栄養ポート部の針先を患者さんが手指で抜かないよう、2種類の固定方法を試しています。

※固定方法1は、透明なプラスチックの箱を被せて穿刺部が分かるように工夫をしました。現在、ポート部の針先の位置や患者さんの

身体に合わせてプラスチックの箱の大きさや柔らかさなど考え、色々なプラスチック製品に変えています。

※固定方法2は、ガーゼを数枚重ね合わせ穿刺部が分る様に切れ込みを入れました。

どちらも患者さんは簡単に針先を抜くことができません。また職員が直ぐに針先を観察できる利点があります。このように患者さんの状態に合わせて固定方法を選択しています。身体抑制は最後の手段として、色々な代替方法を取り入れていることが身体抑制率の減少に繋がっていると考えます。

### **[今後の身体抑制廃止への取り組み]**

今後も医療依存度の高い患者さんが増えることも鑑み、常に代替的な方法を考え、患者さんの命と安全を守る意識と、人としての尊厳を尊重する気持ちの両方のバランスをもって、身体抑制廃止への取り組みを行っていきます。